不知火海・球磨川流域圏学会ニューズレター

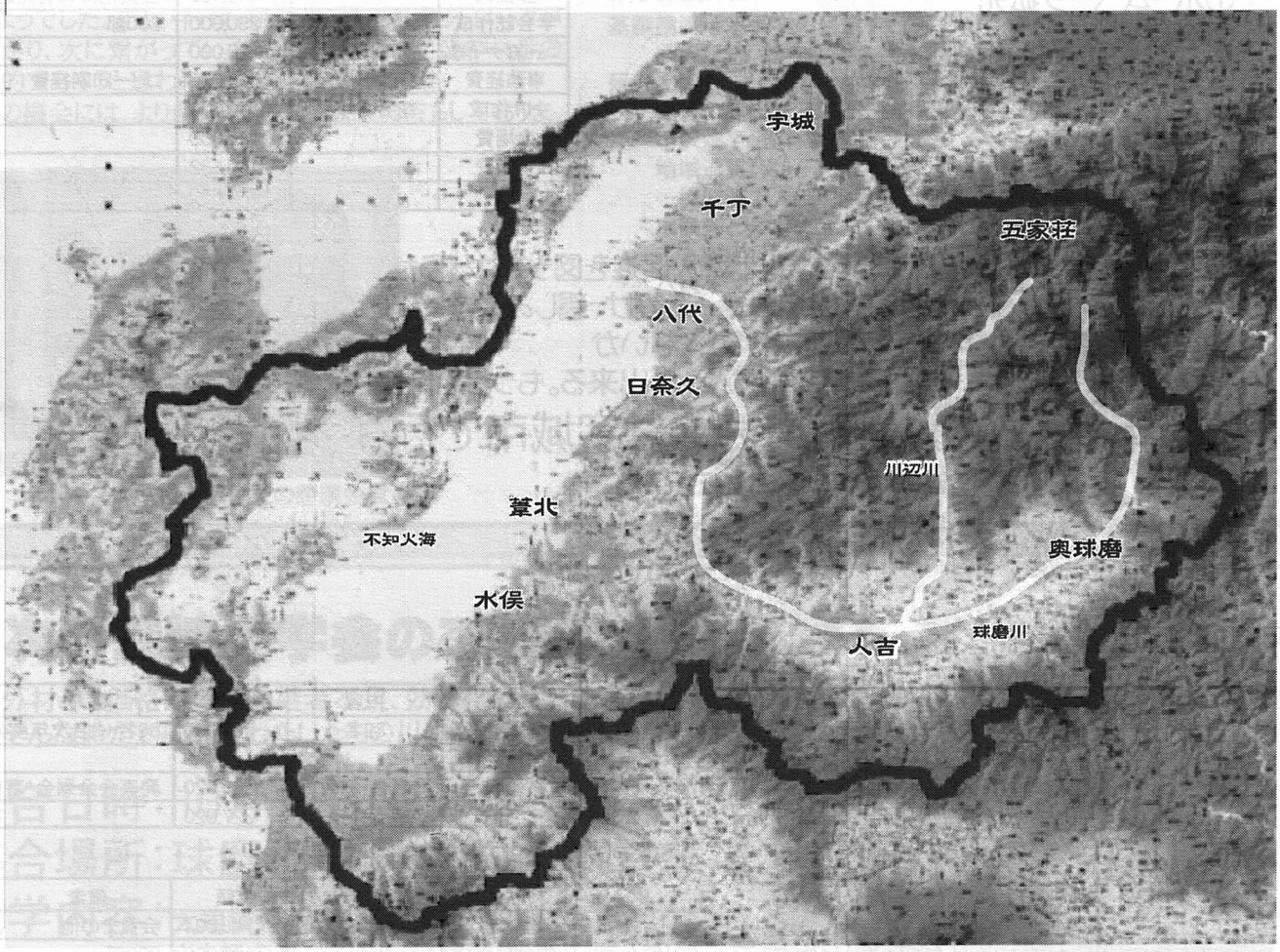
しらぬいくま

第三号

2007年9月発行

目次

■18年度活動報告/19年度活動計画
■研究発表会報告
■次回現地見学会のご案内
■うたせ船乗船記（現地見学会報告）　高橋ユリカ
■「みなみ肥後路」と命名!　早野　豊喜
■「出会い」海藻を育てる建設素材　加藤　英之
■ふるさとの川は永遠に　松本　佳久
■会員自己紹介
■学会誌原稿募集



流域圏図：不知火海に注ぐ一級河川は球磨川だけです

事務局
TEL&FAX：0964-26-2003
熊本県下益城郡城南町東阿高1136-6

18年度活動報告/19年度活動計画

不知火海・球磨川流域圏学会19年度総会が開かれ、19年度事業計画および予算案が議決されました。

平成19年度事業計画

①平成19年度総会開催 5月13日水俣市
②研究発表会 5月13日水俣市
③現地見学会1「観光うたせ船」乗船体験
④現地見学会2 大面積皆伐跡地見学(予定)
⑤ニューズレター発行(9月および3月)
⑥学会誌発行
⑦ホームページ拡充
⑧会員拡大
⑨理事会開催(3ヶ月に一回)

19年度予算

収入の部

名目	内容	金額	備考
個人会費	3,000円×90名	270,000	会員90名
団代会費	10, 000×0	0	
繰越金		10,632	
雑収		100,000	学会誌PDF販売代金他
計		380,632	

支出の部

名目	内容	金額	備考
郵便代		48,100	会員他に40名発送
学会誌作成		250,000	200部
ニューズレター作成	2回／年	20,000	
事務経費	封筒・コピー・チラシ	30,000	コピー印刷経費
H.P.作成	総会会場費	10,000	
会場費		10,000	
予備費		12,532	
計		380,632	

その他

・学会誌を各地の図書館で閲覧依頼し、購入促進を図ってはどうか
・学会誌にコーヒーブレイクのようなコーナーを設け、親しみやすくして欲しい
・教育委員会や各小中学校との連携が出来ないか
・登録すれば各自でホームページに書き込みが出来る。もっと活用して欲しい

◎来年度の総会・研究発表会は宇城市で行なう

平成18年度事業報告

①平成19年度総会開催 5月14日多良木町
②研究発表会 5月13日多良木町
③現地見学会1 球磨川清流の自然と文化を探る
④現地見学会2 佐敷城跡と葦北アマモ場見学
⑤ニューズレター発行(8月および3月)
⑥学会誌発行
⑦ホームページ作成
⑧理事会開催(7回:設立総会後の役員会を含む)

18年度決算

収入の部

名目	内容	金額	備考
個人会費	89名	267,000	86名+3名次年度分
団代会費		0	
雑収	発表会・寄付等	60,020	発表会余剰金・寄付
計		327,020	

支出の部

名目	内容	金額	備考
郵便代	会誌送料・ハガキ	43,894	会員その他
学会誌作成		180,000	200部
ニューズレター作成	封筒・コピー・チラシ	158,936	
事務経費		29,408	ビデオテープ含む
H.P.作成	総会会場費	10,000	
会場費	印鑑製作・振込料金	8,000	
雑費		29,150	振込料550円・印字1100円
繰越金		10,632	3名次年度会費含む
計		327,020	

5月12日懇親会、13日研究発表会報告

五月の美しい空の下、水俣市総合もやいなおしセンター「もやい館」にて、不知火海・球磨川流域圏学会の総会および研究発表会が行なわれました。総会では、これからの学会を見据えた上での活発な議論が起こり、大きな課題と共に期待の大きさを感じる内容となりました。また、水俣市での大きなイベントと重なり、参加者が少ないのではないかと危惧された研究発表会も、80名を越える方が集まり、文系・理系、研究者・市民・行政の様々な知見を共有する事ができました。
これらの発表では、それぞれの内容が興味深いだけではなく、<分野>の垣根を越え、流域という地域の単位で様々な知識を集積することが、今後大きな可能性を秘めていると確信することができました。
また、前日に行なわれた懇親会には、県外からの参加者を含め50人を越える方が集まり、地産地消のバラエティー料理に舌鼓を打ちつつ、熱い人的交流が生まれているようでした。市民・行政・研究者、様々なネットワークが繋がり、次に繋がっていくことこそが、この学会の一番の目的であろうと思われる、楽しい時間でした。
次の機会には、より多くの方のご参加をお待ちしております。

福田農園での懇親会風景

研究発表会風景

研究発表会プログラム

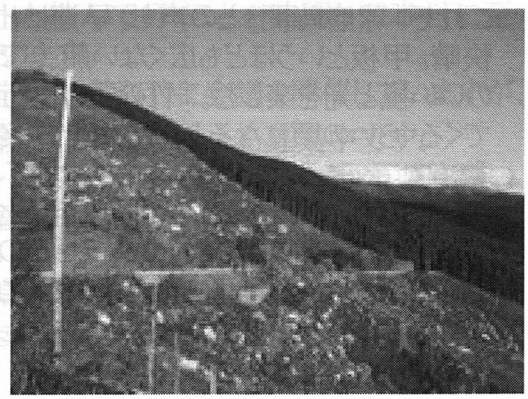
基調講演「水俣学の目指すもの」
　原田正純　熊本学園大学水俣学研究センター所長
研究発表
　山村の暮らしと森の公益的機能
　…沢畑亨　愛林館館長
　地域通貨「ストーン」について
　…梶原誠二　錦町地域通貨研究会事務局
　水俣病と地域社会
　…丸山定巳　熊本大学名誉教授
　八代・芦北・水俣地区における天草下浦石工の活動
　…時松雅史　八代工業高等専門学校准教授
　GPS搭載漂流ブイを用いた潮流観測システム
　…入江博樹　八代工業高等専門学校准教授
　四万十流域圏からアジアの氾濫原沖積平野の地下水をみる
　…辻和毅　不二グラウト工業㈱
　為朝伝説と水俣
　…佐藤伸二　崇城大学非常勤講師

次回現地見学会のご案内

外材との価格競争や後継者不足、効率化と環境破壊など、現在、九州南部の林業は大きな岐路に立っています。そんな時だからこそ、わたしたちの川や海を育む流域の森の状況を見に行きませんか?

集合日時：10月14日(日)　8:30
集合場所：球磨郡球磨村　球泉洞駐車場
見学内容：大規模皆伐と機械集材の跡地見学と水と緑の森づくり税（森林環境税）を使った植林活動について
申し込み：0966-69-0485（沢畑）
tanada@sweet.ocn.ne.jp　締切10/10

尚、前日には懇親会が予定されています。


森林の大面積皆伐（撮影・蔵治光一郎）

「うたせ船乗船記」
2007年度不知火海球磨川流域圏学会・5月13日

高橋ユリカ(ジャーナリスト)

美しい帆の姿を、96年に「水俣・東京展」で見て以来、一度乗ってみたいと憧れてきた「打たせ舟」。津奈木の小さな港で帆をたたんだ舟がわたしたちを待っていた。漁師4代目という船主の新立冨男さんが、37年前に造った「福吉丸」だ。

夕方に近づくにつれ天候が悪くなりそうだと出航をせかされていたが、遅れた方がいたので、わたしたちは、出航前の舟のうえで昼の宴を先に始めることになった。

山々の緑が、海に映える。舟の上には、次々と海の幸が広げられた。どれも美味だが、一等はプラスティックのおもちゃのように見える透明なゆでシャコ。殻のトゲトゲが痛い「いたうま」であった。ご馳走には太刀魚などもあったが、打たせ舟で魚類は捕らない。打たせ舟は、帆に風をうけて網を流しながら海の底にいるエビやシャコを捕っていく。エンジンをかけずにすむ環境にやさしい江戸時代以来の漁法で、最盛期は6月から8月。

さてさて、予定を大幅に過ぎてUさんの登場。これぞ「球磨時間」との声も。早速に出港だ。快晴。甲板というほども広くない船上で気持ちのいい風と光を楽しむ。「竹の子の葉っぱが出てくるくらいの頃になると、イシエビが冬眠から覚めてでてくるよ。毎年、暦じゃなくて、ちゃあんと竹の葉っぱと一緒だね。丘の変化を見ながら、海で仕事をするね」と、自然暦の大切さを語る新立さん。岸辺で突いた子だこも、「百合の花が咲く頃には、みんな大きくなって沖に出る。もうすぐじゃけん」と。

しばらくして、慌しく帆が張られたあとは、太刀魚を一本釣りするための釣り糸を、のんびりと何人かが思いおもいにたらした。網を引き上げやすいようにか、船べりは低い。

網を引き上げてから、3時頃だろうか。新立さんの予想通り、風が強くなり始めた。舟も大きく揺れ始める。皆さんが、次々とザッバーンと大波をかぶり、思いっ切りずぶぬれ。わたしは船酔いが始まり、ふらふらと横になって、まるで船上のまぐろ状態・・・。

波しぶきの音と「きゃあ～」という声をうつらうつらしながら聞く。はっと目を覚ましてみると、全員がオレンジ色の救命具を着用して、真剣な表情で真ん中に固まって座っている。どう見ても、助けを求めて漂流中のボートのよう。もちろん、帆は降ろされている。

木の葉のように揺れた「打たせ舟」。これでも、たいした風でもないだろう。「水俣・東京展」の際には、「日月丸」は、水俣から東京湾まで航海してきたのである。小さな打たせ舟が、外洋を航海してきた大変さと、多くの人の祈りと願いの意味を改めて思った。

この日、舟上には、海の大和田先生、森の小川先生、蔵治先生、川の森山先生をはじめ、さまざまに流域に関わる人たちが「同舟相救う」となった。まさに、分野が違って会うこともなかった専門家や流域に暮らす人たちが同じ舟に乗り合わせたのである。これからは、「不知火海・球磨川流域圏学会」で互いに助け合い、未来へ向かって航海するのだと期待する。

息の合ったご夫婦姉妹の新立さん

球磨川流域と五家荘、芦北、水俣エリアを総称を「みなみ肥後路」と命名！

早野 豊喜（みなみ肥後路ネットワーク）
日本旅行地域観光振興&インバウンド担当／株式会社 Mアート21代表

「みなみ肥後路ネットワーク」のいきさつ

八代、芦北、球磨の各地域振興局は来たるべき九州新幹線全線開通を見越し、地域振興対策の一環として「県南観光連携プロジェクト」を立ち上げました。

平成18年10月27日に第1回会議を開催、3地域で活躍されている12名の観光仕掛け人が主役になり、地域振興局、県市町村の観光担当者、コーディネーター兼資料提供役の日本旅行と一緒になって、本年3月まで合計6回の会議を重ねてきました。

先ずは、互いの地域を知り、人を知り、素材を知ろうではないかと言うことで、2回目の会議は1泊2日の下見旅行を仕立て、各地域の方との交流や実情を見聞録し、夜は地域ブランドに指定されたばかりの球磨焼酎を豪快に試飲?しながら、熱い想いを語り合い、互いの距離が非常に近い存在になりました。

その後の会議も早朝より集まり地元の観光仕掛け人の案内で周遊し、午後から会議を開催。人吉では栗のフルコース料理、焼酎蔵元見学、奥球磨では自然の深さや恋愛祈願の道を歩き、八代では里山や農の知恵を活かしたグリーン・ツーリズム、石文化の歴史を垣間見、 日奈久温泉の山頭火ファッションの案内には全員が感激!サプライズ。芦北の薩摩街道情緒を味わい、水俣の環境学習・リサイクル・リユースの現場見学など…各地域の魅力再発見とともにそこで地道に活躍される人との出会いに触れ、地域へのさらなる愛情を感じた次第でした。

山頭火ファッションでのご案内にビックリ!

栗のフルコース

会議は、地域の情報を共有すると共に共通意識の醸成と人の交流を図ることができ、同時に新幹線全線開通後の誘客対象エリアの想定、それに基づく具体的モデルコースの開発、各地域発の小旅行開発(ちい旅と名づける)、連携する地域の呼称（みなみ肥後路に決定）など多くの成果を残すことができました。 そしてこの会議は、観光仕掛け人が主導するスタイルに移し、継続して交流を図り新しい展開へと結んで行くことを確認して本日に至っております。

※定期的（隔月）に会議を開催していますが、随時新しい観光仕掛人を募集中です。

一緒に「みなみ肥後路」の観光振興について語りませんか?

◆問い合せ先：みなみ肥後路ネットワーク事務局（久保田貴紀）TEL0966-42-3680
kachar_design@ybb.ne.jp

5. 「出会い」ー海藻を育てる建設素材

加藤英之 株式会社 哲建設 技術顧問

「藻礁の研究」を続ける中で、私は二人の素晴らしい方と出会いました。

もともと私は、新建材である、木毛セメント板の製造に半生をかけて来た者ですが、平成七年、平成不況の煽りを喰って建材の用途が激減、やむを得ず熊本県産業技術センターに、 木毛セメント板の用途について相談に行ったのです。その時、お会いしたのが、情報デザイン部の研究参事中村哲男氏でした。氏は「木毛セメント板は木材とセメントという天然素材だけで出来ている。無公害の環境にやさしい、これからの時代にマッチした素晴らしいボードだと思う、是非研究を続けましょうよ」と励ましてくださり、水産研究センターという、これまで私が全く無経験だった「海の世界」に誘って下さいました。

藻礁にぎっしり生えたコンブ

次は、水俣市漁業協同組合組合長の岩崎巧氏です。平成十三年三月、芦北の計石港で、熊本県木材流通対策室の事業として「木毛魚礁」を沈設するという企画がありましたが、その時松葉杖をついた見知らぬ人が私のそばにやって来て「あんたの品物は、木材をセメントで被覆してあるので、従来の木材魚礁よりは寿命が永いとおもうが、私の漁師としての経験と勘からすると、魚礁より藻礁の方がよりよいのではないか」と言われたのです、その方が岩崎組合長さんでした、その時は、私に知識がなく聞き流していたのですが、そのうち水産研究センターの実証試験などで、木毛セメント板は海藻を付着させるのに適しているという成果が出始めて、私は改めて水俣漁協に行き、初めて岩崎組合長さんと真剣に向き合ったのです、岩崎組合長さんは開口一番「俺は汚染されて駄目になった水俣の海を再生するという使命に燃えて組合長になったのだ、再生するには海藻の生い茂る海にするしか方策はないのだ、俺達の年代は水俣病関連で生活が出来る程度の保障はして貰ったが、このままでは後世の人達に魚棲まぬ海を残す事になる、それだけは私の責任において許されぬことだ」「それには、この木毛セメント板は面白い素材と思う、一緒に試験をしてみよう」と熱い思いを頂きました。この出会いから私は岩崎組合長の信奉者になり、その手足になろうと決意したのです。水俣の海を海藻の生い茂る海にしたときに、岩崎組合長と私の夢は実現するのです。この仕事を始めてから、もう九年経過しますが、まだ本当の成果はあがりません、しかし、県の産業技術センターの中村哲男参事と、水俣漁協の岩崎巧組合長、このお二人の透徹した時局観と、環境への思いと責任感に励まされながら、私は残りの人生をこの仕事にかけて行く積りです。

豊かなふるさとを永遠に!

松本佳久 山江村民テレビ住民ディレクター 村議会議員

球磨川支流、万江川のほとりに57年間暮らし続けています。万江川の語源は万の泉と聞きました。その万江川支流・薬師谷川源流の、夏も冬も15度Cの天然湧水を赤ん坊のときから飲み続け、今も毎日美味しくいただいています。祖先も私の家族も、生活に又農林業に、万の江から南に向かって流れ出る万江川の水の恵みを多大に受けて生かされてきました。

庭も田んぼも畑も、一面草だらけですが(本当です)、これも潤沢な水の恩恵です。雨のない砂漠に草木は育ちません。水がなければ、雑草も作物も芽吹くことはなく、生長することは不可能です。本当に日本に潤沢にある資源は、水だけかもしれません。(本当は「水と人間」、と言いたいところですが・・・・。)

昭和28年、国策として熊本県の指導もあり、当時の山江村執行部・村議会は、山江村奥地開発のために、万江川上流域約1千haの水利権を日本窒素株式会社(現チッソ株式会社)に譲渡契約しました。チッソも山江村に対して道路開発負担金を支払ったり、地域住民への水道敷設や電気供給など、少なからぬ地元便宜対策を採っています。チッソは、北に向かって山の中に導水路を穿ち、同じく五木村から集水した水と合流させて、八代市坂本町深水のチッソ水力発電所で落差を利用した水力発電をしています。

水利権は数回更新されて、次の更新時期は平成29年です。万江川は地域住民の宝、私たちにとっては国宝にも匹敵する宝です。地域の生存のために、万江川上流域の水利権を返して欲しいと考えるのは、私個人のエゴでしょうか?水利権返還のために、どうか皆様方の知恵を貸してください。お願いします。

私の子孫も万江川の水の恵みをいつまでも受けることが出来るように、水と緑に包まれた「不知火海・球磨川流域圏」と、水の惑星地球とを、皆様とともに大切に守り、後世に永遠に引き継ぎたいと、強く念じています。

緑豊かなふるさとよ、永遠に!!

どんな学会ですか？ どんな人が会員ですか？

みなさんの要望にこたえ、数人の方に自己紹介してもらいました。
さて、どんな学会像が見えてきますか？

●坂井米夫さん　八代市千丁町在住 流域圏学会の会計担当
八代平野の千丁町で500年前から栽培されているイグサと、米を作っている農家です。イグサの栽培は、現在は最盛期の15%あまりに減り、米も温暖化で収量が減りつつあります。そんな中、自宅食料の自給率70%が目標です。

●蓑茂寿太郎さん　熊本県立大学理事長
現職に就くまでは東京農大で造園研究。造園でも「広大な地域を庭にみたてた」ランドスケープ研究。特定地域学研究を提唱し人吉盆地を対象にアジアモンスーン型環境計画モデル開発に取り組み中。

●中村和彦さん　球磨村森林組合
日本は温暖化を阻止して環境を回復させる、水と緑の先進国となれるはず。球磨川流域を美しく豊かな水と緑の楽園にするべく、生涯をかけて森づくりに取り組みたいと思っています。

●入江博樹さん　八代高専機械電気工学科 准教授
八代高専の10名の教員で『環八代海（不知火海）モニタリング』プロジェクトチームをつくり、環境の調査・保全を目的とする環境情報の収集・分析・情報公開のシステムを構築しています。
URL:http://y-page.yatsushiro-nct.ac.jp/u/irie/BUOY/)

●松本美恵子さん　NPO法人ひまわりステーション ひまわり保育園
保育事業をスタートさせて三十二年。今では「園児九十名、学童四十名」をかかえる認可外保育園です。 今年、NPO法人となりました。川あそびやカヌー教室を川辺川や万江川で行なっています。夢は、万江川添いに絵本館を作ることです。

●坂本久生さん　愛知県立大学非常勤講師
専門はフランス文学（20世紀小説）および比較文学です。一見畑違いではありますが、文化的な面でわずかなりとも地域研究の役に立てれば、と思っています。

●林裕美子さん　綾の森を世界遺産にする会
宮崎県綾町では、針葉樹人工林を伐採して照葉樹自然林を復元する事業が、行政・研究者・市民の協働で始まりました。復元の過程の環境変化を見るための調査に参加しています。

●山口 貴美代さん　芦北郡芦北町計石在住
熊本県が抱えている(水俣病・川辺川ダム)問題を解く多方面の資料を生み出して欲しいです。きっと、色んなことにツナガル筈だから・・・・よろしくお願いします。楽しみに期待しています。

●蔵治光一郎さん　東京大学愛知演習林 流域圏学会の編集委員長。
2003年8月16、17日に水俣・宝川内土石流被災地を視察させていただき、帰りに球磨川を案内していただいて以来、不知火海・球磨川流域圏の魅力にとりつかれ、今に至っています。

市民と研究者とが、様々な学問分野を【流域圏】という切り口でつなげ、地域のより深い理解につなげようとする、生まれたばかりの学会です。現在数十人の研究者および市民の方が、会員登録していらっしゃいます。地域の知識を広く集め、研究者と市民とをつなぐ学会活動に、多くの方のご参加をお待ちしております。
お仲間になって頂けそうな方がいらっしゃいましたら、ご紹介ください。
ご案内をお送りいたします。

連絡先（学会事務局）：熊本県下益城郡城南町東阿高1136-6（佐藤伸二方）
TEL/FAX：0964-26-2003　crane938@yahoo.co.jp(つる方)　　年会費：3000円

不知火海・球磨川流域圏学会 学会誌第2巻第1号 原稿募集!

みなさんの地域への熱い想い・愛着を学会誌に載せてみませんか―

学会では、会則に定められた学会誌を発行するため、下記の要領で原稿を募集いたします。
専門家に限らず一般市民の方や農林水産業に従事されている方々、行政の方々から、学際的な情報を広く掲載、紹介していきたいと考えています。より多くの方の執筆参加をお願いいたします。

1.原稿の種類

募集する原稿は、以下の3種類です。

1)原著論文

広くみなさんから、論文を募集します。流域圏に少しでも関係するものであれば、どのような研究領域の論文でも構いません。
ご投稿いただいた原稿は、専門家や地域の事情に詳しい方に査読を依頼し、編集委員会で採否を決定いたします。
なお、本学会誌は高校生でも読めるものを目指していますので、専門用語には必ずわかりやすい解説をつけてください。

2)研究ノート、調査資料、記録

愛する地元=流域圏に関して、資料を集めている方はいませんか?積み重ねた知識を文章に残しませんか?
論文の形には至らなくても、あなたの探究心は流域のみなさんにとっても価値あるとに違いありません。たとえば、自然・歴史・社会などの調査報告、観察記録、資料として未来に残したい情報などです。活発な探究心と知識の共有は、流域の未来の礎となることでしょう! 小中学生、高校生からのクラブ活動や自由研究の紹介も大歓迎です。

3)流域いろいろ

研究に限らず、流域への想い・エッセイ、イベント情報など、流域のみなさんに知ってほしいこと・お伝えしたいことはこちらにどうぞ。有形無形の流域の宝物を探し出し、みなさんと分かち合いましょう!「こんな研究して欲しいなぁ~」という要望なども是非お寄せください。

2.発行予定

2008年3月31日　諸事情により変更される可能性があります。

3.締切り

1)の原稿: 2007年9月30日
2)3)の原稿: 2007年11月30日

なお、学会誌第2巻でイベント等の告知をされる場合は、2008年4月以降に開催予定のものをご投稿ください。
それよりも早いイベントの告知については、ニューズレターへ掲載をお勧めいたします。

4.投稿方法

投稿を希望される方は、まず編集委員長に電話やメールでご相談ください。
原稿の形式は、学会誌創刊号に準じますが、引用文献の記載法など、細かい点については、追ってお知らせいたします。
完成した原稿は、投稿整理票に必要事項を記入の上、原稿とともにメールまたは郵送で編集委員長宛にお送りください。
手書き原稿も歓迎します。

5.送り先、問い合わせ先

編集委員長 蔵治 光一郎　Email: kuraji@uf.a.u-tokyo.ac.jp
〒489-0031 愛知県瀬戸市五位塚町11-44
東京大学愛知演習林内 TEL 0561-82-2371 FAX 0561-85-2838

不知火海・球磨川流域圏学会は、私たちでつくる、私たちのための学会です。皆さんからの熱い想いが投稿されることを、編集委員会委員一同、お待ちしております!

―学会誌への広告掲載募集―

次号の学会誌より、広告の掲載を始めます。
10cm×7cm(A4の1/8) 5,000円 A4全面4万円
企業・商店・個人・サークルなど、分野を問いません。学会誌の紙面でアピールしてみませんか?
応募先は、論文と同じく編集委員まで!　※公序良俗を乱し学会誌に相応しくないと判断されたものは、お断りする場合がございます

■不知火海・球磨川流域圏学会ニューズレター第3号
編集・発行/不知火海・球磨川流域圏学会 発行日/平成19年9月 Design/Studio Kinoko

■編集委員会
委員長/蔵治光一郎　委員/新井祥穂・住吉献太郎・高木正博・前田一洋・村上雅博
ニューズレター編集/久保田貴紀・吉本博明・重松貴子

■ニューズレターに関するお問い合わせ
蔵治光一郎/ kuraji@uf.a.u-tokyo.ac.jp